もっと知りたい ふるさと 59

里人の心のよりどころ 倉科神社

倉科神社は区のほぼ中央、倉科コミュニティセンターの道を挟んだ向かいにある（敷地約4000㎡）。

明治41年、時の政府が一村一社制を施行し、村内各地に鎮座していた石井神社・倉科一宮神社・皇大神社・諏訪社・蚕影社・冨士浅間社・戸隠社の七社（旧七社）が石井神社に合社し「倉科神社」となった。現在、当時各神社から持ち寄った社号額が本殿に掲げられている。旧七社の草創は古く、倉科一宮神社は大宝年間（701～704年）に石杭の地へ、旧諏訪社は承和元年（834）に竹尾の地へ創建されたと伝えられている。

また、石井神社・皇大神社・蚕影社については元禄10年（1697）の「松代藩書」に記録されている。戸隠社・冨士浅間社は、江戸時代後期には既に存在していたと言われる。本殿中央にある御神鏡は江戸中期に作られたとのことで、250年は経過している。こうして倉科神社は合社前後数百年以上、倉科村民の「無病息災」「五穀豊穣」をお守りしている由緒ある神社といわれる。

御神鏡

春秋行われる獅子舞の奉納

合社当初から今も年間12の祭典が行われる。昔は、殊に春秋の祭りは村をあげての重要な行事で、春祭りにはその年の豊作と村人の息災を祈念し、秋祭りには豊年と安寧無事を祝い、余興では、草相撲・村芝居・演歌・神楽など賑やかに行われていた。しかし、時代の推移とともに祭りの盛り上がりがなくなり、参拝者も少なくなってきていた。

そこで、なんとか昔の祭りの賑わいを復活させようとの声が上がり、5年ほど前から春秋の祭りでは神楽保存会による神楽のお練りや獅子舞などが奉納されている。秋祭りには春よりも盛大な獅子舞の他、本殿前で育成会の子どもたちがおもちゃ販売や綿あめのサービスをする露店、盆踊り保存会の伝統ある「たにし踊り」などがあり、大変賑わうようになった。

更に食生活改善委員会の皆さんが昼食のおにぎりやみそ汁を作ってくれるので参拝者も増えて楽しい会が一段と盛り上がってきている。

神社敷地西北にある、樹齢270年余の欅は、市の保存木に指定されたのを機に「御神木」として祀られ、神社とともに倉科の里の人々の幸せを守っている。

御神木の欅

神社の敷地や社殿は、各常会から選出された神社役員や育成会役員等によって定期的に掃き清められ、子どもたちの遊び場や散策の休憩地、集合場所などになっている。たまたま標高が387㍍で、「郵便番号と同じだね」と、いっそう親しまれている。

お盆には公民館役員により広場の真ん中に櫓が組まれ、盆踊りの輪が広がる。スイカ割り大会・ビンゴゲームなども行われ、若者有志による大型露店「わくわくランド」が店開きし、金魚すくい・水玉ヨーヨー・焼き鳥・かき氷・ビヤガーデンなどで大変賑わう。まさに人々の交流の場・歓談の場となる。

こうして倉科神社は、里の人々の心のふるさと、かけがえのない心のよりどころとなっている。

「倉科の里ガイドブック」編纂委員会　町田直幸